

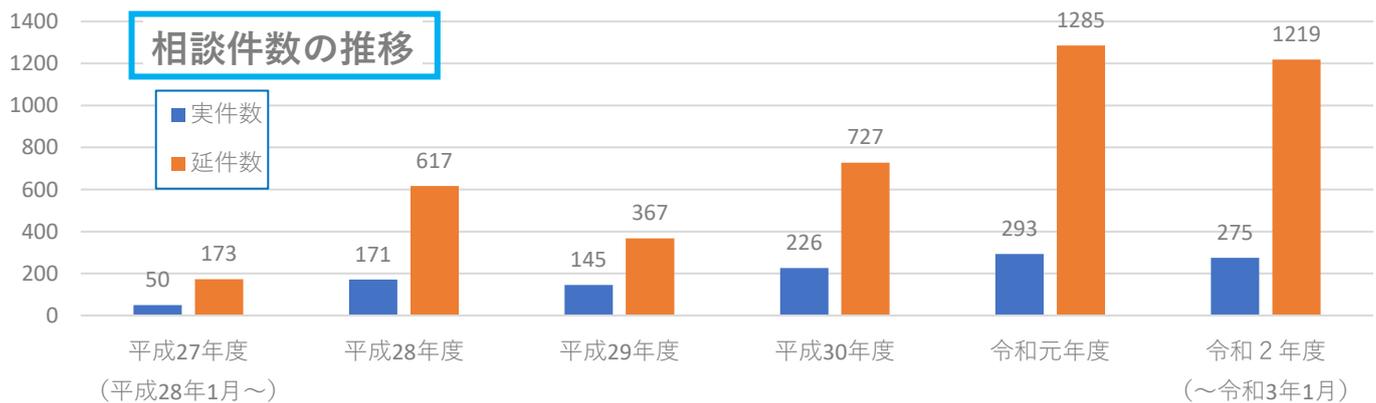
つむぎ開設から5年が経ちました！



浜松市在宅医療・介護連携相談センター（愛称「在宅連携センターつむぎ」）は、市民が医療や介護が必要になっても可能な限り人生の最期まで住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、それを支える地域の医療・介護・福祉関係者等への支援を目的とした在宅医療・介護の連携に関する相談窓口として平成28年1月に開設しました。開設から5年が経過し、これまでに延件数4,388件（実件数1,160件）の相談に対応してまいりました。（令和3年1月末現在）

つむぎでは、相談業務以外にも介護施設等へのアンケートを実施し社会資源の現状把握に努めるとともに、在宅医との意見交換会や地域包括ケア病棟意見交換会を継続的に開催するなど、関係機関との連携も行ってまいります。

また、在宅医療・介護連携における専門知識の講義や地域ケア会議でのアドバイザーなども積極的に行っております。お気軽にお声かけください。



☆介護施設等へのアンケート

つむぎへの相談で「在宅療養が難しくなった時の入院・入所先」の問い合わせが数多くあります。このような相談に対応するため、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設等へ対応可能な医療行為、看取りの対応等について、アンケートを行っています。

アンケートの情報をもとに、事例ごとに該当施設への確認のうえ、情報をお伝えしています。

☆地域ケア会議等への関り

困難事例に対して地域ケア会議等を行う時、専門職の意見を必要とすることが多々あるかと思えます。つむぎでは、依頼のあった地域ケア会議等に参加させていただいています。社会福祉士、看護師が参加し、専門職からの視点と、当事者ではない第三者的な視点からの提案・助言を行います。

また、精神疾患の事例に対して精神保健福祉士、認知症の事例に対して認知症ケア認定看護師、褥瘡やストーマ管理の必要な事例に対して皮膚排泄ケア認定看護師、といった専門職をつむぎがご紹介することもあります。

関係機関が多岐に渡り、お困りの事例がある場合は、つむぎが検討会議を開くことも可能です。



相談事例Q&A～相談内容を紹介します～

Q1. 90代、要介護1、親族と疎遠。大腿骨頸部骨折で入院中。退院後に入所できる特別養護老人ホームを探している。（ケアマネジャー）

⇒ つむぎのアンケート調査情報より、身元保証人が不要、特列入所に対応している4施設について情報提供した。

Q2. 統合失調症の人が入所可能な施設の情報を教えてほしい。（ケアマネジャー）

⇒ 過去の相談事例から、統合失調症の人の受け入れ実績のある5施設の情報提供をした。

Q3. 本人の病状悪化が見られるが、新型コロナウイルス感染への不安から家族が受診に踏み切れない。（病院での感染が心配。入院したら面会できない中で亡くなるかもしれない。）家族は在宅で看取りの覚悟もある。対応検討を目的とした地域ケア会議へ参加してほしい。（地域包括支援センター）

⇒ 地域ケア会議（地域包括支援センター主催）で、ケアマネジャー、サービス事業所、地域包括支援センター、つむぎが参加し情報を共有。「本人はどう思っているか」「穏やかな生活、看取りを支えること」に焦点を置き、対応について話し合いを持つことができた。

※今年度に入り、新型コロナウイルス感染症への不安からか、不測の事態に備えて施設入所に関する相談が増えました。



3年間を回想する～地域における多職種連携に想いを寄せて～

つむぎの業務を始めて3年が経過しました。前職の病院の相談業務では、院内の多職種連携を行い、患者さんの思いを地域に発信し、院外での多職種連携に繋いでいくという使命の下で業務を行っていました。つむぎでは組織を超えた相談を通して地域を知り、地域の多職種と繋がっていくところや、問題解決するための医療福祉的な視点を多職種と共有できるところにやりがいを感じています。

日々の相談においては、家庭的な問題（独居、高齢者世帯、8050問題、親族疎遠、虐待、介護マンパワー不足など）、経済的困窮、病状・医療的な問題（認知症、精神疾患、アルコール依存、透析、難病など）など、一人の対象者が複数の問題を抱えているケースが多いのが特徴です。問題が多いほど多職種連携を円滑にし、問題解決していく必要があると常と感じます。

地域に暮らす市民の皆様の困りごとが少しでも解消し、その人らしく生活ができるように、つむぎでは様々なネットワークを持っています。様々な関係機関主催のイベントや浜松市主催の事業、地域ケア会議にも参加し、地域の多職種との顔が見える関係を構築するとともに、社会資源を蓄積しています。また、多職種でのケース共有は新たな視点や気づきを覚えたり、各職種の役割分担に繋がります。

来年度もみなさまと共に問題を共有し、繋がっていくつむぎを目指してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。（社会福祉士 藤原 真理絵）



「つむぎ通信」は2019年度から在宅連携センターつむぎの周知と情報発信のため発行しています。バックナンバーはホームページ<https://www.hmedc.or.jp/tsumugi/information/>からご覧ください。

今年度は、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年間でした。

つむぎへのご協力、ご相談等ありがとうございました。

1日も早くコロナ禍が収まりますよう、皆様にお会いできますよう祈っています。

来年度も変わらず、よろしくお願い申し上げます。

